

# プログラマブル表示器の動向

近藤治彦\*

## 要旨

プログラマブル表示器は、従来操作盤の操作性改善を望むユーザーの増加によって1988年ごろから登場した製品である。通常、シーケンサに接続され、シーケンスプログラムレスで、タッチスイッチのON/OFF情報の伝達やシーケンサのデバイス情報をグラフィカルにモニタできる。また、操作画面をフレキシブルに変更でき操作盤に比べて導入コストを削減できることなどから、従来の機械装置の付加価値部品から必ず(須)部品へと変革を遂げている。

近年、機械装置においてビジョンセンサや監視用カメラなどが設置されるケースが増加している。また、制御機器のオープン化に伴い、パソコンの適用範囲が広がり、機械装置に組み込まれる場合が増えている。このような機械装

置はCRTモニタを複数台設置することが多い。表示器にビデオ入力機能を追加することで、従来個別に設置されていたCRTモニタを表示器に統合化することができ、機械装置のコストダウンや、省スペース化を図ることができる。

本稿では、そのような市場ニーズにこたえるために開発したビデオ入力対応表示器“ A985GOT・TBA・V ”を紹介する。

今後、機械装置の高性能化・高機能化に伴い、市場の利用形態は更に多様化すると予想される。このように多様化する市場の要求にこたえるため、今までの操作盤機能に加え、種々の機能を取り込んでいく。




**ビデオ入力対応GOT**

- 最大4台のカメラ映像を同時表示
- カメラ映像の切り出し表示が可能
- ビデオ信号とアナログRGBに対応

GOT : Graphic Operation Terminal








## ビデオ入力対応GOT“ A985GOT・TBA/TBD・V ”

GOT900シリーズの一機種としてビデオ入力対応表示器A985GOT・TBA/TBD・Vを開発した。A985GOT・TBA/TBD・Vは、解像度800×600ドットの12型TFTを搭載し、操作画面と同時にビジョンセンサなどのビデオ画像を表示可能とした。ビデオ画像をプログラマブル表示器に表示することにより、機械装置周辺のCRTモニタを省略することが可能で、省スペース、コストダウンを実現することができる。